

表 第4回 湯西川ダムモニタリング委員会における委員指摘事項と対応（案）

項目	委員指摘事項	対応（案）
水質	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的に珪藻やクリプト藻が増加しているのは自然なことであり、水質に影響はない。今後は淡水赤潮が発生する可能性もあるが、水質に悪影響を及ぼすものではない場合が多い。淡水赤潮が発生しても、冷静に対応する必要がある。（浅枝委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の水質監視において留意する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・礫間浄化施設の効果は、上流の下水排水系統の変化を確認しながら経年比較を行う必要がある。（由井委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・とりまとめの際に留意する。
猛禽類	<ul style="list-style-type: none"> ・イヌブナやミズナラの実が豊作になればネズミ等が増え、猛禽類の餌資源量も増えることになる。これらの結実状況について、道路上を歩いて調査する方法でも良いので確認してほしい。（由井委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認方法を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・流域以外で行ったダム用の砂利採取地の猛禽類の現況を確認してほしい。（由井委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と調整し確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の飛翔エリアでは、イベント関係などに使う大きな音の出る花火・水陸両用バスの航行などは行わないよう関係機関と調整してほしい。（由井委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、調整を行っていく。
哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水池の出現により、堤体上をシカやクマなど哺乳類が横断している可能性もある。人と動物の安全を考える上で、まず、実態を確認してほしい。堤体上に砂を撒いて足跡を確認する方法も有効。（由井委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査方法を検討し確認する。
魚類	<ul style="list-style-type: none"> ・今回確認されたトウヨシノボリについて、種名、型を確認して、五十里ダムに生息している種と同じか、他からの移入種か確認する必要がある。（中村委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の調査において確認する。
昆虫	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫調査において確認種数が少ないのは、調査時期によるものと考えられる。今後の昆虫調査は6月～7月中旬に調査を行う必要がある。（矢島委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な調査時期を検討する。
風穴	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム湖の出現が、特に冬の湖周辺の気象に大きく影響していると考えられる。風穴やダム管理支所の気象観測データを比較して、ダム湖の有無による影響を確認してほしい。（酒井委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム管理支所地点の気象観測データを含めて、検討を行う。
魚道	<ul style="list-style-type: none"> ・魚道に、岩や流木などが溜まり機能が損なわれることがないように管理していく必要がある。（中村委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚道の管理を適切に行う。
水源地動態	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業の振興と生態系に配慮した湯西川湖の利用がなされるよう、地元住民、漁業関係者、関係機関が綿密に協力していく必要がある。（中村委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、協議会を設置する予定である。